

10. 経済政策の効果

マクロ経済で習うこと

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	生産要素 資本、労働	マネーサプライ	労働者 (失業率)
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 (消費者物価 卸売物価)	利子率 (国債利回り)	賃金 (雇用者所得)

財政政策の効果

公共投資 G を国民所得の式に加える。

$$\text{消費関数 } C = a + bY$$

$$\text{投資関数 } I = c - dr$$

$$\text{国民所得 } Y = C + I + G$$

$$Y = a + bY + c - dr + G$$

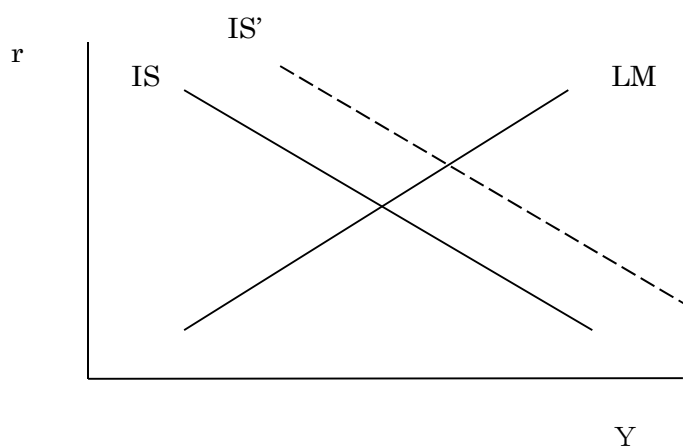
$$(1 - b)Y = (a + c) + G - dr$$

$$r = (b - 1)/d Y + (a + c)/d + G/d$$

$$r = \frac{b - 1}{d} Y + \frac{a + c}{d} + \frac{G}{d}$$

IS 曲線がシフトするのは、係数 a, b, c, d が変化するか、 G が変化したときである。
 G が大きくなると IS 曲線の切片は上に上がり、右にずれる。

財政政策の効果は、IS 曲線が () にずれることで表現できる。



IS-LM分析での乗数分析(財市場だけ考慮した場合)

$$\text{消費関数 } C = a + bY$$

$$\text{投資関数 } I = c - dr$$

$$\text{国民所得 } Y = C + I + G$$

Gを ΔG だけ増やしたとき、Yが ΔY だけ増えるを考える。このときも上の式は成り立っているため、 ΔG と ΔY の関係が導き出せる。

公共投資を増やす前

$$Y = a + bY + c - dr + G$$

$$(1-b)Y = (a+c) + G - dr \quad \dots \textcircled{1}$$

公共投資を増やした後

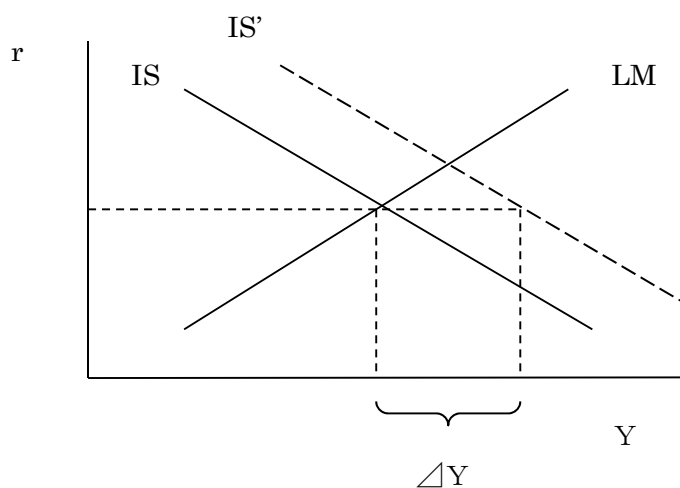
$$Y + \Delta Y = a + b(Y + \Delta Y) + c - dr + G + \Delta G$$

$$(1-b)(Y + \Delta Y) = (a+c) + G + \Delta G - dr \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{2} - \textcircled{1}$$

$$(1-b)\Delta Y = \Delta G$$

$$\Delta Y = 1/(1-b)\Delta G$$



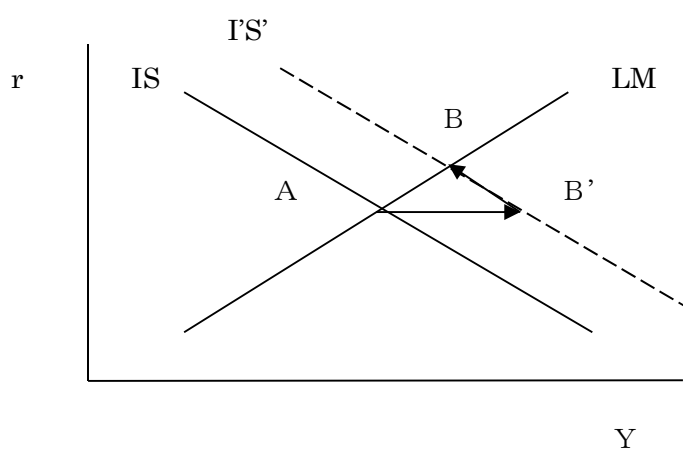
クラウドイング・アウト（財政政策の効果）

財政政策により、均衡所得は点にうつる。

政府支出を増加させると、() が上昇し、民間投資が押し下げられることをクラウドイングアウトと呼ぶ。財政政策のマイナス面である。

政府支出を増やすと I S 曲線が右に移動する。本来 B' に対応するところまで国民所得は増えるはずである。しかし、金利が上昇して投資を抑制し、均衡点は B 点となる。

財政支出を増やすことによって、金利が上昇し民間投資を追い出す（クラウド・アウト）することになる。



金融政策の効果

貨幣需要関数 $L = aY + b - cr$ 貨幣供給量 $M = m$

貨幣市場が均衡するときは、需要と供給が等しくなる。

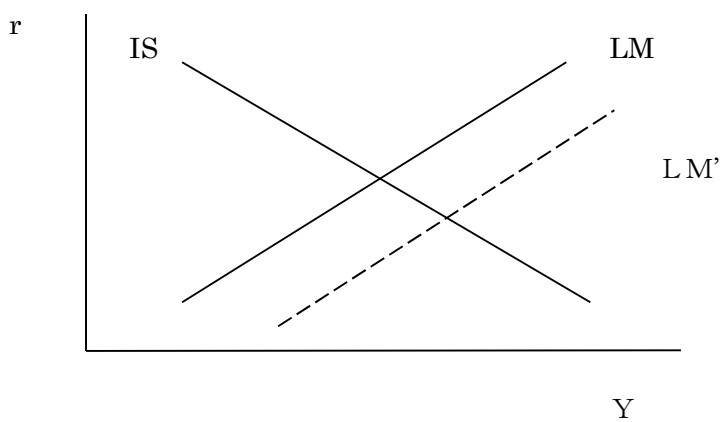
$$L = M$$

$$aY + b - cr = m$$

$$r = \frac{b - m}{c} + \frac{a}{c}Y$$

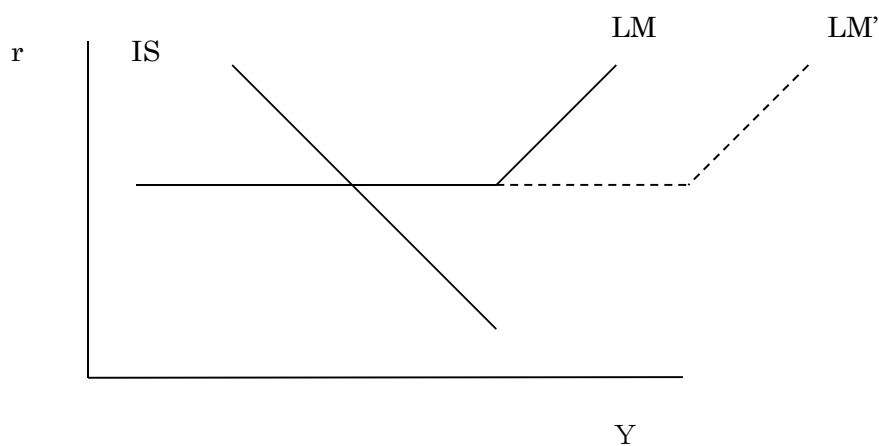
金融政策とは、マネーサプライを増加させることである。マネーサプライを増やすと、切片のマイナスが大きくなる。これはLM曲線が（ ）に移動したことを示す。

金融緩和をすると、LM曲線は右側にシフトする。



流動性のワナ

LM曲線のシフト



流動性のワナとは、() 状況で起こる現象で、LM曲線が () になっている状態をさす。金利が非常に低く、貨幣需要の利子弾力性が無限大になる状況である。貨幣か債券かの選択で、金利がどれだけ動いても貨幣の需要しか増えないときの状況である。

流動性のワナに陥っているときは、貨幣供給量を増やしても金利が ()、国民所得が ()、何も起こらない。貨幣（流動性のあるもの）にすべての効果が吸収されてしまうため、ワナと呼ばれる。

IS-LM曲線上では、流動性のワナにあるときは、金融政策を使って貨幣供給量を増やしても、交点は変わらず、国民所得は増えない。

IS-LM曲線のまとめ

IS 曲線	投資の利子弾力性がゼロ	垂直
	投資の利子弾力性が無限大	水平
	公共投資の増加	右にシフト
LM 曲線	貨幣需要の利子弾力性がゼロ	垂直
	貨幣需要の利子弾力性が無限大	水平（流動性のワナ）
	マネーサプライの増加	右にシフト

IS-LM曲線の計算問題

(手順1) 財市場 (IS 曲線) の式と貨幣市場 (LM 曲線) の式を作る。

(例)

$$IS \text{ 曲線} : Y = 100 - 10r + G$$

$$LM \text{ 曲線} : Y = 45 + 10r + 0.5M$$

Y : 国民所得, r : 利子率, G : 政府支出, M : マネーサプライ

(手順2) 国民所得を求める場合 → 利子率を消去する

利子率を求める場合 → 国民所得を消去する (こちらが多い)

利子率の変化を求める場合、GやMの値が与えられていても、記号のままに計算する。

(例)

公共投資が変化したときの利子率上昇分を計算する場合

$$r = 1/20(55 + G - 0.5M)$$

$$r = \frac{1}{20} \times (55 + G - 0.5M)$$

(手順3) 変化前と変化後の式を作り、引き去る。変化後の等式はすべての変数にΔが付く。

$$\text{変化前} : r = \frac{1}{20} \times (55 + G - 0.5M) \cdots \textcircled{1}$$

$$\text{変化後} : r + \Delta r = \frac{1}{20} \times (55 + G + \Delta G - 0.5(M + \Delta M)) \cdots \textcircled{2}$$

② - ①

$$\Delta r = \frac{1}{20} \times (-0.5\Delta M) = -\frac{1}{40} \Delta M$$